

右下腹部痛の診断に苦労した一例

南部徳洲会病院 2 年次 粕谷吾朗

【症例】 21 歳女性

3 日前より 38 度台の発熱、頭痛が出現し、2 日前より腹痛が出現。市販の鎮痛薬を内服して頭痛は軽快したが、腹痛が持続するため来院。

腹痛は始め心窩部にあったが、時間経過とともに右下腹部に移動していた。発熱 38 度、理学所見上、右下腹部に圧痛・反跳痛をともに認め、血液検査にて CRP・WBC が高値であった。

CT 上、盲腸の内側に膿瘍もしくは腹水の伴った右卵巣腫大の疑いもあったが、虫垂炎を否定できなかったため、手術を行った。しかし虫垂自体の炎症は軽度で、一部癒着していた部分に腫大した卵巣を触れた。虫垂切除は行ったが、術中に採取した腹水中の腫瘍マーカー CA125 が正常値を大きく上回っており、漿液性腺癌を含めた婦人科疾患による右下腹部痛であった可能性がある。